

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	2790800110		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこの家		
所在地	大阪市東住吉区中野2丁目5番11号		
自己評価作成日	平成31年3月30日	評価結果市町村受理日	令和元年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年4月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとり、ひとりを大切に」を基本理念とし、ご入居者様のお一人お一人に合わせたケアが出来るよう、1日の流れの時間マニュアルは作らずその時のご入居者様の意向に合わせられるようにしています。地域への活動では、町内の清掃活動や夏祭りへの参加、事業所内の行事にも地域の方々をお招きしたり、毎月の「認知症カフェ」では地域との交流が出来るように工夫しています。毎日の食事に関しては、ご入居者様と一緒に調理し職員も一緒に食べています。外出の行事では、ご入居者様が行きたいと思うところに行けるように職員と一緒に計画を立てて、お一人お一人が満足できる外出が出来るよう考えております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりを尊重し、笑顔で過ごせる楽しい住まいづくりが、理念の「ひとり、ひとりを大切に」に繋がること、管理者・職員が一体となって利用者に寄り添いながら、チームケアに取り組んでいる。各ユニット毎で利用者の好みと旬の物を取り入れた手作り食事は、健康の維持や一日の楽しみの一つとなっている。日頃から近隣の人たちとの挨拶や、地域行事(敬老会・祭り・公園清掃)への参加、保育園児との交流等、地域の中の生活者として根付いている。ホーム主催の夏祭り・オレンジカフェ(月1回)に地域の人の参加や、中学生の体験学習の受け入れ、認知症サポーター養成講座の開催を行い、地域における福祉施設の役割を担っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員ロッカー・玄関・フロア・エレベーター内に提示している。また個人面談や会議の中でも理念内容の確認や実践の有無を確認している	職員全体で考えた「ひとり、ひとりを大切に」の理念を玄関・各ユニットの目につく所に掲げ、“利用者の気持、家族の思い、職員の気持”を常に意識しながら、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩や買い物時は、地域住民との挨拶は欠かさず行っている。地域のお祭りや敬老会への参加、町内の公園掃除活動	日頃から近所の人と挨拶を交わし、畑の野菜をもらったりする近所付き合いがある。地域行事(公園清掃・敬老会・祭り、婦人会の作品展等)への参加や保育園児との交流、ボランティア(傾聴・体操・フラワーアレンジメント)や中学生の体験学習の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症の方と直接触れ合う機会をつくる。夏祭りなどの行事に近隣の方を招待し、一緒に楽しむことで支援方法を理解してもらう。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行っており、町会長、地域包括支援センター、ご利用者様、ご家族様が参加されている。その場で出た意見や希望を、会議等で職員に伝達し改善策を検討し実践に繋げている。	運営推進会議構成員参加の下、年6回開催している。ホームの現状・行事報告を行い、取り組み内容を説明し、参加者から意見・情報をもらっている。曜日・日時の関係上、家族、地域の関係者の参加が少なく、メンバーの再考や参加者増に向けた呼びかけが課題となっている。	地域の民生委員・婦人会、公正中立な認知症知見者の参加要請を行うと共に、家族参加の促しと意見収集の方法を検討し、地域密着型サービスの運営推進会議の充実を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム・小規模多機能連絡会、ケアマネ連絡会、その他の連絡会等に積極的に参加し、情報共有を行うとともに今のニーズを把握している。	東住吉区の保護課・保健福祉課へ、面談及び電話連絡で現状報告・書類提出を行い、相談・指導を仰ぎながら連携を図っている。区主体のグループホーム連絡会やケアマネジャー連絡会に参加して、関係構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化に向けた会議を2か月に1回行い、身体拘束の適正化の為に指針に基づき身体拘束防止研修を行い、身体拘束ゼロに取り組んでいる。日中は、玄関・フロアの開錠を行っている。	年2回の研修と月1回のフロア会議での勉強会で内容と弊害を理解し、身体拘束をしないケアを図っている。日中は玄関と各ユニット間は開錠し、見守りと声掛けを行い、自由で開放的な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各事業所の研修委員が中心となり、虐待防止研修を行い職員一人一人が虐待について意識出来るようにし、全体会議等でも注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様で成年後見制度を利用されている方もおり、職員もご家族様と同様に後見人と話す機会を多く設け、関係性を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書及び重要事項説明書等の書類に基づいて説明を行っている。また、入居後であってもご質問があればその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時にはこちらからお声掛けをし、ご意見やご要望をお聞き出来るように努めている。玄関には「ご意見箱」を設置している。運営推進会議でのご意見の集約と、年に1度のご家族様満足度アンケートを実施し職員で共有している。	利用者からは日々のケアの中で意見を汲み取り、家族からは訪問時に聞き取っている。ほとんどの家族の頻繁な訪問があり、その都度意見を聞いている。玄関内に呼び出しプザーの設置依頼があり、要望に応じている。行事・日常写真と生活内容を記した毎月の“おたより”は、家族から好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談で細かな意見を聞いている。月1回の全体会議で意見交換を行い、ケア会議ではより細かな意見や提案を聞ける環境作りを行っている。	年2回の職員の個人面談時に、孝課面談表(自分の強み・キャリアプラン・成長についての考え等)を基に、聞き取りを行っている。日頃の気づきや提案はリーダーに伝え、事案検討を行って即解決・実行を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季・冬季の年2回、考課表を作成し個人面談を実施。その際職員の勤務状況を把握し今後に向けてモチベーションアップに繋がる環境作りを努めている。考課表に関しては代表者に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、年間研修計画を作成し毎月内部研修を実施している。法人外研修では資格取得の為の研修や、認知症実践者研修、その他の研修にも積極的に参加できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム・小規模多機能連絡会、ケアマネ連絡会、その他の連絡会等に積極的に参加し、施設見学会や交流会などにも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が安心して暮らしていけるように一人一人と向き合い、不安な事や困りごととは一緒に解決できるような関係づくりをする為に、日々のかかわりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話でのご質問や、施設の見学をして頂く際に、不安な事や要望を細かく聞き取りをし説明をしていきながら、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談時に、ご本人様とご家族様が望んでいる事、困っている事を確認しご相談しながら初回のケアプランに反映していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯・家事作業、買い物や外出といった日常生活動作の活動を通し、共に生活する者同士の関係性を築けるように、普段のかかわりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時には普段の様子等を報告すると共に、ご本人様の想いを一緒に考えていけるように努めている。月初めには写真を付けてご本人様の様子をお手紙にし送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく、友人や知人等も気軽に訪問して頂けるよう努めている。外出では、できるだけご本人様の馴染みの場所に行き少しでも繋がりが続けられるような支援をしている。	以前と比べて馴染みの意識が希薄になっているが、友人・知人・親族の訪問がある。利用者のつながり、人や場所の馴染み関係継続と生活習慣を大事にして支援している。愛犬と共にホームで生活している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でご利用者様同士が自然にかかわれるような作業を取り入れたり、レクリエーション活動では、職員が間に入ること で助け合いながら楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も訪問して下さるご家族様もおり、次の相談や支援に繋がるよう対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人様の思いを汲み取る為に話の内容や言動をポストイットし、ケアプランに反映させている。ご本人様の希望があれば、できる事から実施している。	ホームの“毎日のこころえ”にある「表情・今の行動・身体の状態・出来る事」に関心をはらい、声掛け・問い掛けで利用者の希望・意向を把握するよう努めている。どのように思い、どのようにしたいかを確認しながら、本人本位の気持ちを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時にこれまでの生活歴等を聞き取りフェイスシートに記入している。入居後も出来るだけこれまでの生活が継続できるよう情報収集し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で出来ることはして頂きながら気付いたこと、気になる事等があれば記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のケア記録に援助内容を記載しモニタリングを行っている。出来る限りご本人様、ご家族様のニーズを確認しながら、かかりつけ医や職員間で意見交換をしアイデア等を反映し、作成している。	ケア記録を基に往診ノート(医師)と訪問ノート(看護師)で身体状況を把握し、毎月のカンファレンスとモニタリング(随時)を行うと共に利用者・家族の意向を確認し、6か月毎に現状に即した計画作成を行っている。家族訪問時に新計画の内容を説明し、記名捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を用いて日々の状況を簡潔に記録するよう努めている。フロア会議でモニタリングやカンファレンスを実施し、常に見直しを行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りその場でのニーズに対応できるようにしているが、柔軟な支援をしていく為には課題もあるのが現状である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや商店街への買い物、地域の夏祭りや敬老会等へ参加している。町内会の清掃活動等にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関(2ヶ所)があり、本人、家族様の同意のもと月2回の往診を受けている。急変時には、提携医療機関に連絡し家族様と連絡を取りながら対応している。入居時に今までのかかりつけ医からの情報を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族の同意を得て協力医院の内科(月2回)の往診を全員が受けている。歯科(週1回)は口腔ケアと治療を希望者が受けている。皮膚科・訪問マッサージも希望者が往診を受けている。常駐の看護師資格保有の職員2名と訪問看護師(月2回)による適切な健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内での気づきを看護師と共有し、月2回の訪問看護にて報告、相談している。夜間帯も24時間対応のナースコールで報告、相談しており常に適切な看護を受けることができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は付き添いを行い、介護サマリー等情報を提供している。家族の同意を得て面会や、ムンテラにも同席し情報交換や、相談できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向を確認した上で主治医と施設が方針を共有し、事業所で出来ることを考えていながら関係者と共に支援できるようにしている。	入居時に“重度化した場合における対応指針”文書で説明し、同意を得ている。身体状況変化時に医師から状況説明を行い、“看取り方針及び同意書”で利用者・家族の意向を確認し、対応方針の統一を図っている。関係者全体で話し合いと連携を密に行い、開設以来数例の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度応急手当普及員講習を受講した職員が救命講習を全員に行っている。また、会議等で事例を挙げ初期対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	数か月に1回防災訓練を実施している。消防署の方が来られた時は、安全な避難場所や避難方法を学んでいる。地域での災害時の避難場所を把握している。	昨年7月に事業所主体の防災訓練を実施している。近々消防署指導の下の、防災訓練実施の予定をしている。緊急連絡網・自動火災通報装置や、利用者夫々の非常袋(水・アルファ米)とホーム全体用の水・ごはん・オムツ・懐中電灯の備蓄品を整備している。	居住空間が1～3階で3ユニット27名中、車椅子使用者が8名の現状を踏まえて、確実な避難誘導と具体的な避難経路を日頃から全体で話し合い、それに基づいた計画作成と訓練の繰り返しを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人、ひとりの生きざまや性格等を把握し、その方を尊重した言葉遣いや声かけをし、羞恥心等への配慮を心掛けながらその人らしさを引き出すことを常に意識し、対応している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、ホームで安心して快適に過ごせるよう、本人の気持ちを大切に考えたケアに取り組んでいる。プライバシー確保が必要な排泄・入浴時の配慮や入室時の声掛けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者本位に努めている。また、意思表示が難しい方はご家族様と相談したり、ご本人様の表情等を汲み取りながら自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルを無くし職員都合の業務は無くす取り組みをしている。利用者一人ひとりのペースに合わせ出来る事は一緒に行いながら、日々過ごしています。その中で希望等があればそれに添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望に合わせて近隣の美容室へ出掛けご自分で似合った髪形を決めている。服装に関しても、ご自分で選べるように支援している。時々一緒に買い物に行き選ばれる事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えたり調理も一緒にしている。食材の買い出しや後片付けも一緒にしている。また、その時に食べたいものを宅配や外食に行く事もある。	ユニット毎に利用者の好みを聞いて献立を作成し、一週間単位で生協から食材を調達し、補足材料は近隣のスーパーで購入して、各ユニットの厨房で職員が調理をしている。利用者ができる範囲の盛り付け・配膳・後片付けを行い、職員と同じテーブルで会話を交わしながら食事を摂り、時折、外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は毎日個別に記載している食事や水分量の低下が見られた時は、看護師や医師に相談したり、ご本人様の嗜好を探りながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをしながら実施している。訪問歯科にて必要な場合は、ケアプランに入れ指導を受けながら実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は毎日個別に記載している。一人ひとりの排泄パターンを見ながら、習慣に合わせて出来るだけトイレでの排泄が可能になるよう支援している	布パンツ使用者とリハパン・パット併用者が各々半数の状態、オムツ使用者は1人も居ない。排泄記録でパターンを把握して、日中はトイレでの自然排泄を支援している。夜間時のパット交換は見回り時(2時間毎)となっているが、睡眠を優先して、水分補給・身体状態に沿って交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握と、運動と食生活の改善に力を入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別の希望やタイミングを重視し気持ちよくて楽しいと思って頂けるように、ご本人のペースで入浴できるよう努めている。	週2回の入浴が基本で、日時は希望や習慣に合わせて対応している。入浴拒否の人には、タイミングや声掛けの工夫、職員の交代で対応し、浴槽に浸かってゆったりとした入浴となるよう支援している。入浴剤の使用で変化を楽しんだり、ゆず湯で季節感を味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間を決めずにご本人様の睡眠ペースに合わせている。照明、騒音、室温に配慮し安眠できる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別にファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。日頃から、ご利用者様の状況を観察し、看護師等と相談しながら薬の見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の状態に合わせて、家事等の出来る事やレク等の楽しみ事、散歩や買い物等の気分転換をし、それぞれが役割として活動出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の買い物や、気分転換等の外出をしている。また自宅や遠方への外出は、ご家族様と相談の上本人の希望に添えるよう支援している	日常の外出は近隣周辺の散歩、買い物、公園に出かけている。居間に面した大きな開けた掃き出し窓から、1階は和風の庭へ出て、2・3階はベランダにあるプランターの花を眺めながら外気浴・日光浴ができる。ワゴン車2台でU・SJ・淡路島・天王寺動物園の遠出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設立替にて対応している事が多いが、ご家族様と相談の上少ない金額ではあるが、所持金を持たれる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が携帯電話を持たれ、ご家族様等と話をされている。希望があれば電話や手紙等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いや清潔に気を配り落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。1日2回温度、室温を計測し居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	居間兼食堂は居住空間の中央に位置し、大きく開けた窓からの採光も良く、開放感ある仕様となっている。壁面に絵画や手作り折り紙、習字、行事・日常写真を飾り、温かい雰囲気を醸し出している。館内は湿度・温度調節に配慮して、快適で過ごしやすく居心地良い空間を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを4つに分け、気の合う仲間と過ごしたりひとりの時間を過ごしたり自由に過ごすことの出来る空間づくりを行っている。フロアにソファ等を設置し、自由にくつろげることの出来る居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクローゼットは備え付けであるが、ご本人様の使い慣れたダンスや布団等を持参され居心地よく過ごせるよう工夫している。	なでしこの花が描かれている表札を各室ドアに掲げ、家族の希望で暖簾を飾っている人もいる。ベッド・クローゼット・洗面台は設置されており、利用者は馴染みのダンス・小物・家族写真を持ち込んでいる。ベッド脇のナースコールの配置や、動線確保のための家具の配置を工夫して、安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、日常生活における家事等は、「できないところや」「わかりにくいところ」をお手伝いしながら出来るだけ自立支援に向けて工夫をしている。		